

商品名 アドフィードパップ40mg 添付文書情報

一般名	フルルビプロフェン貼付剤（1）	薬価	17.60
規格	10cm×14cm 1枚	区分	
製造メーカー	リードケミカル	販売メーカー	リードケミカル 科研製薬
薬効	2. 個々の器官系用医薬品 26. 外皮用薬 264. 鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤 2649. その他の鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤		

アドフィードパップ40mgの用法・用量

1日2回、患部に貼付する。

アドフィードパップ40mgの効能・効果

次記疾患並びに症状の鎮痛・消炎：変形性関節症、肩関節周囲炎、腱炎・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎（テニス肘等）、筋肉痛、外傷後の腫脹・外傷後の疼痛。

アドフィードパップ40mgの副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：
 - 1) ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）：胸内苦悶、悪寒、冷汗、呼吸困難、四肢しびれ感、血圧低下、血管浮腫、蕁麻疹等があらわれた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 2) 喘息発作の誘発（アスピリン喘息）（頻度不明）：乾性ラ音、喘鳴、呼吸困難感等の初期症状が発現した場合は使用を中止すること（なお、本剤による喘息発作の誘発は、貼付後数時間で発現している）。
2. その他の副作用：皮膚：（0.1～5%未満）皮膚そう痒、発赤、発疹、（0.1%未満）かぶれ、皮膚ヒリヒリ感。発現頻度は使用成績調査を含む。

アドフィードパップ40mgの使用上の注意

【禁忌】

1. 本剤又は他のフルルビプロフェン製剤に対して過敏症の既往歴のある患者。

2. アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発）又はその既往歴のある患者〔喘息発作を誘発させることがある〕。

【重要な基本的注意】

1. 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
2. 慢性疾患（変形性関節症等）に対し本剤を用いる場合には薬物療法以外の療法も考慮すること。

【合併症・既往歴等のある患者】

1. 気管支喘息＜アスピリン喘息又はその既往歴を除く＞のある患者：アスピリン喘息でないことを十分に確認すること（気管支喘息患者の中にはアスピリン喘息の患者も含まれている可能性があり、それらの患者では喘息発作を誘発させることがある）。
2. 皮膚感染症のある患者：感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分に行い、慎重に使用すること（皮膚の感染症を不顕性化するおそれがある）。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。シクロオキシゲナーゼ阻害剤を妊娠中期以降の妊婦に使用し、胎児動脈管収縮が起きたとの報告がある。また、シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。

【小児等】

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

【高齢者】

貼付部の皮膚の状態に注意しながら慎重に使用すること。

【適用上の注意】

1. 薬剤投与時の注意：
 - 1) 損傷皮膚及び粘膜に使用しないこと。
 - 2) 湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。

【取扱い上の注意】

内袋開封後はチャックを閉めて保存すること。

【保管上の注意】

室温保存。



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.